平成 25 年 1 月 1 日　　No.46（24―3）

# 建設防災
# ボランティアニュース
# 第 46 号

## 年頭のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。今年は、暮れからの暦の関係で大型連休となり、ゆっくりとお正月を楽しまれた方も多いのではないかと思います。

昨年は、尖閣諸島，竹島，TPP等の外交問題、国内では、経済の低迷、東北地方の復興の遅れ、原発問題の混乱等明るい話題は少なく、そして、暮れには都知事選挙・衆議院選挙とあわただしい一年であったと思います。

更に，我々土木に関係する者にとっては、中央道笹子トンネルの事故は、老朽化した公共施設の早期改善が急務であることを世間に再認識させるとともに、また、12 月 9 日の三陸沖地震は、今後もマグニチュード 8 クラスの余震も考えられるとのことから、震災復興のスピードを上げていかなくてはならないことを示したと思います。

さて、当協会は、会員皆様方の献身的な活動と建設局をはじめとする関係機関のご支援ご協力により着実に活動を継続し、昨年 6 月には設立 15 周年記念を迎える事が出来ました。

ここに改めて、会員の皆様、関係機関各位にお礼申し上げます。

今年も、協会員と関係機関各位の更なるご協力とご支援をいただきまして本協会の活動の一層の充実と発展を図ってまいりたいと考えますのでよろしくお願い申し上げます。

今年1年が日本にとって明るい展望の持てる年になりますように、そして協会員皆様と東京都建設局、公益財団法人東京都道路整備保全公社、公益財団法人東京都公園協会各位のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

東京都建設防災ボランティア協会会長　沼尻　孰

## 平成24年度勝どき橋ミニツアー研修会を開催

今年で7回目となる研修会を11月1日（木）、築地市場厚生会館で開催しました。協会員42名に建設局、道路整備保全公社の方々を加え、昨年を上回る 54 名にご参加いただきました。

沼尻会長

加藤保全担当部長

相場一建所長

佐口係長

15 時 45 分に沼尻会長の挨拶で始まり、加藤道路保全担当部長からの、協会と建設局の連携を更に強めていこうとのエールに続き、相場第一建設事務所長からは、最近発見された勝鬨橋の映画にまつわる興味深い逸話を交えた御挨拶をいただきました。

議事に移り、公社の佐口係長から昨年の実績について、参加者数の減少は東日本地震の影響であり止むを得なかったこと、ミニツアーの情報源

に口コミが多いのは説明者の努力のおかげなどと、今後の励みとなる報告がありました。

恒例の講演は、まず橋の資料館の井上館長に、徳川家康の江戸入城から現代までの日本橋のさ様々な姿を沢山の絵や資料を使って紹介いただき、続く第五建設事務所の多澤橋りょう建設課長からは、勝鬨橋下流で施工中の隅田川橋梁（仮称）について、一建に拝借した模型も使いながら、事業の概要から構造、工法等について御説明いただきました。お二人の貴重なお話でミニツアーは更に充実したものになると思います。

その後 18 時頃から同会場で懇親会に入り、19 時過ぎに無事終了しました。

藤田公社総務部長　　砂田保全課長

研修会及び懇親会にご参加・協力いただいた方々に心より感謝するとともに、引き続きご協力、ご支援をお願い申し上げて報告とさせていただきます。

担当理事　林　幹生

**勝どきミニツアー研修会参加報告**

今年3月に第四建設事務所を最後に都を退職し、新たに建設防災ボランティアに登録した私としては、勝鬨橋見学ミニツアーのお客様を誘導説明するために、なにしろ勝鬨橋について勉強せねば、という心構えで研修会に参加しました。はじめに主催者である協会の担当理事から挨拶があり、続いて3つの話題で研修が行われました。

最初に道路整備保全公社の佐口係長から「23年度のミニツアー案内実績」について報告がありました。参加者のアンケート結果からは、実に様々な年代・職業の人が見学に訪れ、それだけに興味の対象も多岐にわたるとの話に、改めて説明・対応の難しさを思い知らされました。

次に橋の資料館の井上館長が「日本橋400年の沿革について」と題して徳川家康が江戸に幕府を開き、日本橋が日本の中心になってから今日までの歴史を実に要領よく話されました。特に江戸時代の橋が基本的には現在と変わらない合理的な体系で管理されていたと知り、数百年前の江戸の人々も現在の我々も技術者として同じ発想なのだと感心させられました。

最後に五建の多澤課長から現在建設中の環状第 2 号線の隅田川に架かる「隅田川橋梁（仮称）」の概要について話されました。当該橋梁は隅田川の最下流で東京港に面し、名だたる著名橋と肩を並べ、あるいはその筆頭になる大変重要な橋であり、恐らく歴史に残る事業になるだろうと実感させられました。画面に映し出された橋のフォルムは実に美しく、多澤課長の自信のほどがうかがわれ、技術者として少し羨ましく、また感心させられました。

井上館長　　多澤橋りょう建設課長

研修を終わってみれば、勝鬨橋周辺のより広範な話、現在進行中のダイナミックな話題が聞けて大変有益で満足のいくものでした。次回は是非、勝鬨橋のガイド技術について研修をお願いしたいと思います。

三建班　中川　良雄

**平成24年度**
**施設見学会及び砂防講習会**

平成 24 年 11 月 26 日（月）、西建管内の「あきる野市舘谷地区急傾斜地事業」と「城山トンネル（仮称）・将門大橋工事」等の見学会を実施しました。

参加された 36 名の会員は中型バス2台に分乗し、都庁前を 9:00 に出発、「あきる野市舘谷地区急傾斜地」～「将門大橋」～「城山トンネル（仮称）」～「奥多摩周遊道路」と一日行程で廻り、都庁前にはほぼ予定通りの 18:40 に帰着しました。

「あきる野市舘谷地区急傾斜地事業」は、今年度の「砂防講習会」と位置づけ工事現場の見学を行いました。

施工済(右側)と今年度(左側)施工箇所

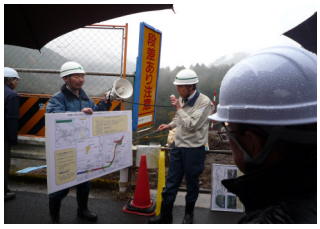
事業の方針は、①斜面対策検討により、秋川の河川区域を取り込んだ事業区域とする、②秋川の河川環境に配慮して、岩場の復旧と護岸表面の修景を図ること。事業の保全対象は住宅3戸、マンション1戸（8世帯）で、工事状況は高さ約 20m、幅約 100m、傾斜約 40～60°　です。

西建からは、工事現場の説明とあわせて「土砂災害防止法について」についても分かりやすく説明がなされました。

「将門大橋」は、棚沢地区の多摩川を横断する位置に架けられる鋼下路式ローゼ橋です。橋長は 110m、幅員構成は車道 3.0m×2、歩道 2.5m です。架設位置は河床からの高さが約 50mにおよび、特に左岸側は岩層がオーバーハングとなっています。

現場はちょうどケーブルエレクション直吊工法によって補鋼桁が架けられている最中でした。参加された会員は「将門大橋」の上流側に平行して架かる「鳩ノ巣大橋」から架橋現場を見学しましたが、多摩川の深い渓谷に架橋される工事現場のスケールの大きさに感動したのではないかと思います。

架設状況を見学



連絡道路の説明

「城山トンネル（仮称）」は、奥多摩町海沢地区と同町棚沢地区を結ぶ延長 1,908mのトンネルで、上下線2車線の車道と幅 2.5mの歩道が片側に設置されるものです。

坑口での概要説明

工事はNATM工法（New Austrian Tunnelling Method）で施工しています。現場は切羽部分の約 40mを残してほぼ掘進が完了している状態です。トンネル内を中型バスに乗りゆっくりと走行し、切羽前で降車、切羽の状態を目視するとともに、普段目にすることがない3ブーム油圧ジャンボや吹付けロボット等の特殊な機械を見ることができました。

奥多摩周遊道路は延長 19.7km、斜面数は道上 196 斜面、道下 150 斜面、橋梁は 11 橋で、昭和 48 年開通した山岳道路です。西建からは、管理上の特長や地域との連携等について実例を踏まえて丁寧に説明がありました。

今回の施設見学会及び砂防講習会を実施するに当たって、ご説明、ご案内された西建の皆々様方には本当にお世話になりました。参加した会

は感謝の気持ちで一杯だったと思っています。この場をお借りしまして御礼申し上げます。有難うございました。

担当理事　藤田進

**施設見学会報告**

本年度の施設見学会は西建管内の「あきる野市舘谷地区急傾斜地崩壊防止工事」と「多摩川南岸道路の城山トンネル・将門橋A橋工事」の2箇所を見学、会員 36 名が参加しました。

8 時 45 分に都庁第一庁舎南側に集合し、2台の貸し切りバスで現地に向かいました。あいにくの雨の中での見学になりましたが、現地での丁寧な説明を受け大変有意義な見学会でした。

施行済急傾斜地崩壊防止工事を背景に

最初に「舘谷地区急傾斜地崩壊防止工事」について西建杉橋所長の挨拶の後、根津工事第二課長からはこの事業が、地元からの要望を受けて行った現地調査の結果、崩壊の危険性があることが判明したために事業化し、工事は 23～24 年度で施工する等の詳しい説明がありました。

事業着手に際しては、地元市の費用負担協議や対岸住民からの環境対策要望に対する対応が必要であったまた、移動の車中では「土砂災害防止法」ついても管内の実情等を交えた説明がありました。

昼食後、将門橋A橋（多摩川の河床から50mの高さに架設されるローゼ橋）工事の現場に到着、橋梁部は根津工事第二課長及び担当係長からこの橋梁の特徴・架設工法、城山トンネルとの取り合わせ等ついて、また、南岸道路と国 411 を結ぶ連絡道路については江澤工事第一課長から詳しい説明を受けました。

切羽前での参加会員

城山トンネルは、掘削・一次覆工が済んだ切羽（押さえの仮吹き付けとロックボルトが施工されていました）付近で説明を受けました。こうした大規模なトンネル工事の現場見学は初めてなので、貴重な体験でした。

帰路車内で有江奥多摩出張所長から「奥多摩周遊導路」等について説明を受け、小河内ダム、月夜見展望台（ちょうど雨が上がり、湖面上に懸かる雲海と山腹の紅葉というすばらしい景色を堪能できました）、都民の森に立ち寄り（ここで西建の職員と別れました、ありがとうございました）、ほぼ予定通りの時間に都庁前に着き解散となりました。

北北建班　海老澤　義秀

**事務所班活動報告**

今年度も建設事務所と防災ボランティア会員との意見交換会、現場見学会等が開催されました、会員からの報告です。

広報担当理事　加藤　基雄

**四建班の報告（意見交換会、現場見学）**

1　いざという時に備えて

道路や河川の整備、管理を担う四建は、商業地域が多く繁華街を抱える豊島区、住宅・工業地域が混在する板橋区、開発が著しい住宅地の練馬区の3区を所管しています。

この地域で、首都直下地震や南海トラフ大地震、台風等の大雨洪水が発生すると甚大な被害が発生すると予想されています。このようないざという時に備えて都市基盤の整備、管理はもとより、現役の職員と我々建設防災ボランティアとが如何に密接な連携を図り、都民の生命と財産を守る活動を適切に行うかが大きな課題となっています。

このため、ここ数年実施している四建との意見交換会が平成 24 年 11 月 8 日(木)開催されました。東北大震災を受け防災に対する意識、備えが重要となっている中で意思疎通を図る貴重な会となりました。その時の様子を報告いたします。

参加者は、四建側、小野所長を含め 6 名の管理職と庶務係長、防災ボランティア側からは、伊藤 L、黒渕 SL、加山、丸山、平野、三原、小柴、久保田、戸張、吉田、小山さんの 11 名が参加しました。

意見交換会

トンネル内の会員

はじめに、小野所長から、①日頃、四建防災ボランティアの皆さんには道路施設点検や初動参集訓練などに参加、支援して頂き大変感謝します、②ボランティアと早期に協定を結び連絡体制が確立されている、心強く思います、などの挨拶がありました。これを受けて伊藤リーダーから、今後とも連携を密に防災ボランティアとしてできることを着実に果たしていきたい旨の挨拶がありました。

引き続き、①現在、四建が抱えている事業の課題、②24年度の道路施設点検、についての説明、③意見交換、など活発に行われました。

その後、水害のない安心して住める街づくりをめざして整備が進む白子川地下調節池(その5)の工事現場を四建職員の案内の基に見学いたしました。

2 よみがえる白子川地下調節池

大雨の洪水対策として四建は、石神井川、白子川、新河岸川の整備、管理に日々取り組んでいます。この内、白子川は中流が埼玉県となっており様々な理由から整備が遅れています。このため、治水安全度の向上と上流の整備を早期に図る必要から比丘尼地域に上流、下流、地下にと調節池群を設けて整備を進めています。

白子川地下調節池シールドトンネル内で既に上流、下流調節地の整備は完了し共用開始しています。現在は、本川の整備とともに目白通り地下に白子川地下調節池のトンネルを築造中です。同時に、到達縦坑もニューマッチケーソン工法で整備が進んでいます。完成の暁には白子川、石神井川と流域の異なる洪水も取り込む調節池機能を有するとのこと

四建班　小山　完治

**西建班の報告(現場視察、意見交換会)**

11 月 1 日(木)に西建管内工事現場の視察と、意見交換会を実施し、協会から谷村、小山稗田、谷貝、佐藤、7名が参加しました。

午後 1 時に西建を出発し、松浦副所長、江澤工事第一課長、根津工事第二課長の案内で、最初に平成 19 年 9 月の台風 9 号による土石流により青梅街道が通行止めとなった奥多摩町の塩ノ沢砂防事業現場を視察しました。

惣岳トンネルと板小屋トンネルの間に挟まれた急峻な沢を上がったところに砂防堰堤工事の現場があります。現場は法面吹付けと堰堤ベースコンクリートが打設された状態で、渇水期を待って今年度工事に着手したところでした。現場はいつ落石があってもおかしくない切り立った斜面を抱え、防護ネットを張っての作業です。資材の運搬等は正味2㎥程のバケットの索道を使って行われており、狭い作業現場と合わせ大変な苦労をされ

て作業は行われていました。

すぐ下を青梅と甲府を結ぶ地域の生命線である青梅街道が通っており、まさに地域の人々の命と生活を守る仕事がされていました。

次の現場は、多摩川南岸道路の一部である城山トンネル工事の現場でした。起点側抗口では、「もこご橋」の上部仕上げ工事が行われており、トンネルは終点側抗口部分まで数十メートルを残すところまで掘削は進んでおりました。その後、抗口終点側となる「将門 A 橋(仮称)」の架設現場を視察しました。

多摩川の深い渓谷を跨ぐ鋼下路式ローゼ橋を架けるためのケーブルエレクションが組み立て上がり、翌日の労働基準監督署の検査を受ける準備に忙しいところでした。

西建職員と参加会員

長年の懸案であった多摩川南岸道路が、鳩ノ巣地区までの延伸が間もなく完成という事で、これまで様々な立場でこの仕事に携わってきた建設ボランテイア西建班メンバーとしても感慨はひとしおでした。架設が終了し、ケーブルエレクションのアースアンカーが撤去されて、いよいよトンネルの貫通が 3 月に予定されているとのことです。

地域の生活や産業を支えるだけでなく、災害時等の安全確保、そして多くの都民が観光に訪れる際の交通混雑の緩和等、その役割が早く果たせることを強く期待しております。

視察後は、事務所において杉橋所長をはじめ全管理職の方に参加いただき、会員 7 名との間で、土砂法関連の区域指定にかかる課題の説明と質疑、建設ボランテイアとして参集訓練や徒歩点検、川を歩こう等への参加についての意見交換が行われました。

宅地開発における法切り斜面 35 度までの許可と、土砂法指定要件が 30 度以上となっていることの差異について、住民の理解が得難い課題もあることも知ることができました。また、かつて行われていた秋川の清掃活動のその後や、徒歩点検後の対応等について、活発な意見交換が行われました。

お忙しい中を準備、そして当日の対応に当たっていただきました西建職員の皆様に改めてお礼申し上げます。

西建班: 谷村 秀樹

**南西建班の報告(現場視察、意見交換会)**

石原知事の退任という記念すべき 10 月 31 日(水)、我が南西建担当の高橋、井上、田中、老沼、堀内、矢野、吉田、中込、林、鹿又のボランティア協会員 10 名は午後2時半に、事務所に集合した。

視察予定の現場は谷地川と新滝山街道である。事務所からは渡邉所長と伊佐副所長を始め、佐藤道路工事係長、岩崎河川工事係長、手塚新滝山街道工事事務所長に加え、工事課職員二名の方々に出席していただき丁寧に現場の様子を説明していただいた。

改修前の谷地川は、古い玉石積み護岸が多く、河床も浅いうえ大きく屈曲していたため、わずかな降雨によっても氾濫していた河道である。近年の河川改修は、計画幅に加え蛇行していた在来の河川区域を有効に利用できる区間は、子供たちが水際まで近づき河川の生き物に触れあえるように緩傾斜護岸で工事を実施している。

今回の視察箇所である城山下橋下流の護岸もゆったりとした傾斜の土提が広がり、落差工の箇所にはハーフコーン型の魚道も設置してあった。

その反面、子供の水難事故も心配で、注意看

板の設置など管理面からの気苦労も尽きないようである。

さて新滝山街道は四つの工区に分かれ、供用している一工区・四工区に引き続き、今年度末に供用開始を目指している二工区、三工区の仕上げ工事の真最中であった。

全体 5.3km の区間にはトンネル部、掘割部、盛土部、切土部、橋梁部と構造物としても盛り沢山で、またお寺、お墓など用地折衝、移転交渉困難な箇所も多く、事務所にとっては永年の重点事業であった。事業に携わってきた歴代の職員の方に敬意を表する次第であります。もうすぐ完成という喜びの雰囲気の中、マイクロバスは意見交換会の時間のため事務所に戻った。

新滝山街道新設現場で職員から説明を聞く

意見交換会は、事務所管理職と協会員との間で午後4時から会議室をお借りして始まった。松浦庶務課長の司会進行により、所長からの挨拶を改めて受け、渡辺管理課長と小野寺補修課長に出席いただき、全出席者の自己紹介の後、事業概要の説明を受けた。その後初動対応訓練と道路施設点検について意見交換を行った。

災害時の初動対応については、特に業務時間外のときの初動時に管理職の自宅が遠いため、防災ボランティアの活動に期待しているとの言葉を受け、改めて責任を感じながら意見交換会を終了した。この貴重な会を企画していただいた南西建事務所にお礼を申し上げ末尾とする。

南西班　高橋　紀男

**北北建班の報告（事例発表・意見交換会）**

平成24年9月19日、北北建が事務所職員の能力向上と人材育成を図ることを目的として開催した所内研修「事例発表・意見交換会」に参加しました。

当初、北北建班から現場視察の案内をお願いしたところ、「せっかくの機会なのでベテランの皆さんの豊富な経験・知識を事務所の若手職員に伝承していただきたい。現場視察の後に、事例発表と意見交換の場を設け所内研修として実施したいので協力していただけないか。」との申し入れがありました。

会員の皆さんに伝えたところ大変積極的な反応があり、3名が事例発表を引き受けてくれました。参加者も北北建班9名のうち7名が参加しました。北北建は若手職員を中心に 22 名が参加しました。

谷本所長の挨拶

参加職員

参加会員天野、藤江、岩田、野村、松倉、藤井

最初に谷本所長から「日頃からボランティア協会の皆様には、暖かい気持ちで防災訓練などに協力いただいており、感謝している。団塊の世代の大量退職の中で、少数精鋭での事業推進や若手職員の人材育成が強く求められる今こそ、災害対応や道路・河川の整備、維持管理に豊富な経験と知識を持たれている建設防災ボランティアの皆さんとの連携が重要であると思います。

今日の研修では事務所事業に幅広くアドバイスをいただきたい。」とご挨拶をいただきました。

協会からはリーダー（藤井会員）の挨拶の後、協会の活動報告（野村会員）と出席者の自己紹介を行いました。

事例発表では、協会から①「災害対応と技術力向上」（松倉会員）、②「環境に配慮した落合川の整備」（藤井会員）、③「新小岩陸橋（巽橋立体）の工夫と成果」（岩田会員）のテーマで、それぞれ20分程度の発表と10分程度の意見交換を行いました。

①では、災害への応災力を高めるには健全で魅力的な建設業の育成が不可欠とした上で、技術力向上のためには現場をよく観ることや産官学との協働意識（対話力）を高めることが大切である。

土木系都職員として「大志（挑戦し、努力する勇気）」を抱けと力説した。

意見交換では「建設業を魅力あるものにするにはどうしたらいいか」との問題提起に対して「自分のかかわった現場を子供に見せる」など様々な意見が出ました。

②では、最高裁まで争われた落合川整備工事（その17）工事を振り返って、現場で発生した施工上の諸課題とその対応について具体例を挙げて説明し、円滑な工事施工には市民との連携・協力関係が大切と説明しました。

「反対者への具体的な対応はどうしたのか」、「水生植物の移植はどうしたのか」といった質問や「裁判を通して都の組織的な対応力には自信を持った」などの意見がありました。

③では、巽橋交差点の立体化（約800m）を1年で完成し、渋滞解消に成功した事例について計画、地元調整、発注方式、施工法等に特段の努力と工夫があったことを説明。管内でも適地を探し、立体化計画を作ってはどうかと提案。

「通常2～3年かかるものを1年で完成したのは素晴らしい」、「管内で適地がないか研究してみたい」といった前向きの意見がありました。

事例発表の最後に、北北建から今年度の技術業務体験発表会で行った「局で初、LED 車道照明の試験施工について＜独立照明編＞」（補修課職員）の発表があり、LED 車道照明導入の課題や今後の見通しについて質疑がありました。

参加した北北建職員からは「協会の活動を知って自分たちも負けていられない、先輩方の貴重な体験、工夫などを聞いて刺激になった、現場視察での雑談、意見も参考になる。」という声が寄せられたとのことでした。

今回の「事例発表意見交換会」と現場視察の機会を提供していただいた、谷本所長を始め北北建の管理職、関係職員の方々、そして参加された職員の皆様に感謝申し上げます。

北北建班　藤井　賢介

## 協会からのお知らせ

### 1.建設局幹部との懇談会

平成 25 年 1 月 18 日(金)18:00 から都庁第一庁舎 32 階北側で開催定されます、詳細は別途案内をお送りします。

### 2.平成 24 年度初動対応訓練

本年度の初動対応訓練が 25 年 2 月 8 日(金)に実施予定です。

詳細は決定次第担当理事より各事務所リーダーにお知らせします。多くの会員の方の参加をお願いいたします。

発行人:沼尻　孰

発　行:東京都建設防災ボランティア協会
所在地:新宿区西新宿 2-7-1
小田急第一生命ビル 20F
公益財団法人　東京都道路整備保全公社内

編　集:加藤　基雄、中田　勝司、丸岡　敏夫